



京筏組のご紹介

京都・大堰川（保津川）の筏流しとは！？

かつて、大堰川（保津川）には丹波山城で伐採された木材を運ぶ筏流しが盛んに行われていました。その歴史は古く、奈良時代にまでさかのぼるといわれています。

大堰川の筏流しは、材木の商品の運搬によって京の都の人々の暮らしを支えた一方で、たとえば足利尊氏による天龍寺造営や豊臣秀吉による大坂城や伏見城築城など、その時代の大事業においても大きな貢献を果たし、時の権力者からも特別な地位を認められてきました。江戸時代末期には経済の発達に伴って輸送も飛躍的に増加し、最盛期には毎年90万本もの材木が京都・大坂に送られ、大堰川流域は大きく栄えることとなります。

半世紀ぶりの筏復活をめざして！

古代から近世にかけて大きく栄えた大堰川の筏流しですが、明治・大正期の山陰本線の開通や国道の整備によるトラック輸送の普及とともに次第に衰退し、戦後しばらくして完全に途絶えてしまいました。

そこで私たち京筏組は、2007年8月に日吉ダム（南丹市日吉町）で行われた天若湖アートプロジェクト2007において、元筏士の方々の指導のもと、伝統的な技法による筏の復原を行いました。2008年に約60年ぶりに保津大橋（亀岡市保津町）からかつて筏の中継地であった山本浜（同條町）まで、2009年に保津峡・落合から嵐山までの筏流しを復活し、さらに2014年には亀岡において、2017年からは嵐山にて、12連約50mの筏を使っての筏流しを復活させてきました。また筏流しをより広く知っていただくために2011年より試乗体験イベントを開催し、2016年には第40回全国育樹祭（京都市）にて、京都府緑化等功労者「森と京都の木の文化発信部門」を受賞しました。

京筏組は、この貴重な歴史遺産を多くの方々が体験し、かつて流域を結んだ川の営みを実感していただくことで、「筏がつなぐ歴史の記憶」を甦らせたいと考えています。



保津峡を下る筏 2009年9月9日



いかだ試乗会 2012年9月15日



嵐山で復活した12連筏 2020年12月13日



亀岡で復活した12連筏 2014年2月16日 写真提供：日向工房

京都先端科学大学&京都府立林業大学校のみなさん

京筏組のイベントでは、京都先端科学大学民俗学研究室、京都府立林業大学校の学生の皆さんが、各々の専門知識や体力を生かし、筏の歴史の展示作成、筏づくりや筏流しに携わっています。若者たちが、大堰川の歴史を実体験し共有することで、大堰川の文化を次の世代へと引き継いでくれることを願っています。

